

に之を止血せんと欲せば、創口を壓迫す、而して止血器を用ゐ、他は外科手術を要するなり

静脈出血は、其色暗紅にして、稍々線状を爲して絶えず創口より流出す、唯た呼吸に附帶して、緩急を來たすことあり、故に此出血は、速に衣帶を解除し、創處を高擧して、安靜になし、綳帶、又は指頭を以て、創口を壓迫すへし、然れども尙ほ止まざるときは、卷軸帶を以て、傷肢の末端より創處に至るまで、悉く纏絡すへし、毛細管出血は、流出緩除にして、多くは自然に止むものなり、故に冷水を以て洗滌し、若くは創口を接合して壓迫すへし

◎骨傷

骨傷は、壯年者、及び老人は、之に罹ること多し、而して其原因となる者は、左の如し

打撲、撞突、蹄傷、墜落、仆跌、銃創等なり今や、骨傷を區別して、單純骨傷、複

雜骨傷之れなり

甲 單純骨傷は、皮膚、節肉、損傷せずして、唯た骨のみ、折傷する者にして、一處或は數處に於てする在りと雖も、一般に治癒易きものなり

乙 複雜骨傷は、皮膚、及び骨と共に損破する者にして、銃創の如き、外來の劇力に因する等にして、其經過宜きを得ざれば、生命に係はることあり、豈注意せざる可らず

既陳の如く、骨傷は二種類あれども、概して骨傷の治法は、折骨端をして、再び正しく接合せしむるを主眼とする者にして、之を整復術と云ふ、故に爾後新生せし骨質に由て、骨端互に相癒合して、堅牢となるに至るまで、其位置を保持するは最も必用なるを以て、之を固定法と稱す

凡て骨傷に付て、注意すべき要項左の如し
傷者運搬の際、創傷を増加し、又は生命上の危害を起さしむる可らず、之れ骨端の

皮下に突隆する者を、再び皮外に挺出するを防ぎ、且つ動搖を避くべし

副木綑帯後は、傷處を安全に保ち、以て折骨端の密合、疼痛を減輕せしめ、骨の尖端の皮外に突出して、彼の複雑骨傷に變せしむる可らず

副木を貼用するには、強く骨傷部を壓迫せざる様にし、故に副木の下には必ず綿花、ガーゼ等を使用すべし

綑帯を施すに際し、骨端の相軋して、疼痛を起し、且つ再び轉位、又は動搖を防ぐを肝要とす

骨傷には、部位に由り、又名稱も異なり、然れども吾人の多く遭聞せし處のもの左の如し

下顎骨傷、肋骨の骨傷、上膊の骨傷、前膊の骨傷、大腿骨の骨傷、脛骨の骨傷等なり

療法 單純骨傷に在ては、其治法何れも大同小異なるを以て、最も簡便豫后

佳良なるものを述べん

前膊の骨傷 此は先づ肘を屈し、骨折端を正しく接合せしめ、其内側に、肘關節の内側より、指端に達する丈の副木を宛て、外側には肘關節より手背部に達する副木を用ひ、而して其上に綑帯にて縛すべし

○複雑骨傷一般療法

骨傷のみならず、皮膚、及び筋肉共に破開せられ、創口より骨端を露呈せる時は、可及的、速に患肢を延引して、之を復納せしめ、若し納まらざる時は、創口を切開して、骨を復納せしめて、後ち縫合すべし、而して之に附隨するものは、副木、及び綑帯、防腐、安聲、等にして動搖は、之を避けざる可らず

○溺死

溺死者を救ふには、先ち死体を直に陸地、或は之を船内に引揚げ、衣帶を脱去し、全身を拭き乾かし、且つ煖めたる毛織物を以て、能く摩擦し、腋窩、及び臍部、

足部に、温湯を容れたる器を以て温むべし、口、鼻等の内を拭ひ、且つ左に掲ぐる方法を施すべし

其一咽頭を掃除する法 此法は、患者をして、俯向に臥せしめ、其片側の前膊を額に當てしむ、而かる時は、大抵飲みたる水を吐出すべし、且つ舌は前に下りて吸呼道開け、口内にある痰を去り、此の如くして、息を吹返したるときは、身体を温暖にする法を講ずべし

其二吸呼を催進する法 直に溺没者を横臥せしめ、鼻孔を碯砂精にて刺戟し、其他烏羽にて、咽喉を摩擦し、加之毛布にて胸部、及び顔面を摩擦して温氣を起さしめ、温湯と冷水を交代に灌注すべし、而して効を見ざれば、前に述べたる人工吸呼法を行のみ

●乳母ノ撰擇法

乳母撰擇に就ては、最も注意を要すき件なり、然れども、我邦に於ては、古來より

の習慣として、唯た泌乳の多寡のみを顧はりて、其他の事を思はざりし爲め知らす々の間に、乳兒に害を興ふること少なからず故に之が緊要なる條項左の如し

(1) 乳母身体健康にして、肺患、梅毒、癩病、癩癩、ヒステリーの遺傳病なき者を選ぶべし

(2) 年齢は二十年より三十年の間を良しとす

(3) 分娩時期は、大抵實母と同じきを可とす

(4) 乳汁分泌充分なるを要す、二十四時間に二千瓦乃至五百瓦以上の分泌なかる可らず

(5) 乳母は、性質温厚、着實伶俐にして、清潔を好むものを良しとす

(6) 經産の乳母なれば、其實子の發育に注意すへし、若し實子虚弱なれば、其乳汁の良からざるを推知するに足る

(7) 乳母の身分に注意すべし、下等生活の者は、大抵風儀悪しきものとす

○乳母の撰擇法

- (8) 乳母の生活状態に注意すべし
- (9) 顕微鏡、及び化學的検査の成果良きものを可とす

●男女の脈數表

年齢	男	女
二年以下	一一〇	一一四
二年乃至五年	一〇一	一〇三
五年乃至八年	八五	九三
八年乃至十三年	九二	九七
十四年乃至廿一年	七六	八二
廿一年乃至八十四年	六九、三	七八、六

但し右表は一分時の平均數なり

●呼吸數表

年齢	呼吸數	年齢	呼吸數
初生兒	三〇乃至五〇	四年	二五
一年	二五乃至三五	五年	二六
二年	二八	十年	二四
三年	二六	十五年	二〇

●年齢、用量比例表

一年以下	十五分乃至十二分一	四年乃至七年	三分一
一年乃至二年	八分一	七年乃至十四年	二分一
二年乃至三年	六分一	十四年乃至二十年	三分二

○呼吸數表、年齢用量比例表

三年乃至四年
七十年乃至八十年

四分一
二分一

六十五年乃至七十年

三分二

●病床上必用温度表

虚脱温

甲 三十三度五分以下を必死虚脱の温度とす

乙 三十三度より三十五度間の虚脱温は、尙ほ生命を保持し得る者なり

丙 三十五度乃至三十六度は、危険ならざる普通の虚脱温なり

常温

甲 三十六度乃至三十六度五分は、稍々尋常より降る温度なり

乙 三十六度七分乃至三十七度四分は、安全の健体温度なり

丙 三十七度五分乃至三十八度は、稍々熱性に近き温度なり

●熱性温

甲 三十八度乃至三十八度四分は、軽症の熱性病温度なり

乙 三十八度五分乃至三十九度にして、夕刻三十九度五分に至るは、中等熱度なるを示す

丙 三十九度五分乃至四十度五分は、重症熱性病の温度なり

丁 四十度六分以上は、最重症熱病の温度なりとす

●容量名稱比較表

茶匙	半匙	食匙	刀尖
一	半	四	半
一	半	四	半
四、〇	二、〇	一五、〇	二、〇
半匙	酒蓋	茶碗	小刀尖
二	凡	凡	十
二	三	三	十
二	三	三	十
七、七	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇
七、七	一〇、〇	一〇、〇	一〇、〇

○容量名稱比較表

○榮養食餌ノ標準表

全 メ ー ト ル	全 三 尺、二 九 二 九 餘	英 バ イ ン ト (藥 液)	全 三 合、一 二 八 一 強
全 フ ッ ス	全 一 尺、〇 三	英 ガ ル ロ ン (藥 液)	全 二 升 五 合、〇 二 五 一 強
全 ツ オ ル	全 一 尺、八 五 八 強	佛 リ ー ト ル	全 五 合、五 〇 六 九 強
全 リ ニ ー	全 一 尺、〇 七 一 強	埃 コ ッ ス	全 七 合、七 七 七 強
魯 ウ オ ル セ リ	全 一 尺、一 四 六 三 強	魯 ウ エ ト ロ ジ ヤ	全 一 合、九 四 五 強
			全 六 升 七 合、七 五 八 四

●榮養食餌ノ標準表

人は人種によりて職業によりて食餌を取るに差異あるべきは勿論なれども其一斑を示せば左の如し

歐 洲 人	人 種 類	檢 査 者	蛋 白	脂 肪	含 水 炭 素
フ オ イ ト 氏	フ オ イ ト 氏	一 二 八、〇	五 六、〇	五 〇〇、〇	

日 本 人	エ ー キ マ ン	九 六、〇	二 〇、〇	四 五〇、〇
中 等 勞 働 者	田 原 須 田 三 氏	九 八、〇	四 八、〇	四 一七、〇
強 劇 勞 働 者	森 氏	一 二一、〇	八 三、〇	三 七三、〇

●牛乳稀釋、及ヒ飲量表

分 娩 後 嬰 兒 の 日 數	稀 釋 の 水 量	牛 乳 の 量	分 娩 後 嬰 兒 の 日 數	一 日 の 回 數	一 回 の 量
一 乃 至 二 週	三 分 の 二	三 分 の 一	一 月	十 回	四 食 匙
一 乃 至 二 月	二 分 の 一	二 分 の 一	二 月	七 回	六 食 匙
二 乃 至 四 月	三 分 の 一	三 分 の 二	三 月	七 回	八 食 匙
五 乃 至 六 月 以 上	稀 釋 せ ず	純 牛 乳	四 月	七 回	十 食 匙

●コンデンスミルク稀釋表

○牛乳稀釋、及ヒ飲量表
コンデンスミルク稀釋表

最 初 一 月	乳 一 分 水 十 分	二 月	乳 一 分 水 九 分
三 月	乳 一 分 水 八 分	四 月	乳 一 分 水 七 分
五 月	乳 一 分 水 六 分	爾 后 是 月	乳 一 分 水 五 分

◎温泉浴法

温泉浴は、種々の疾病に効能あるは、普く人の稱用する者にして、其効たるや、泉中に含在せる成分と、温度に基くことは明瞭なれども、土地の氣候、地味、高低を初め、身體の隨意運動、精神的關係、飲用法、及び浴用法等、凡て其佳適を得されは、奏効を納む可らず、而して、本邦の如き、土地豊沃、氣候温和、山水の勝地に富饒なる、他國に見ざる天恵の地にして、殊に温泉の箇所、全國至る所に之れあらざるはなし、眞に世界の樂園ならん、而して此に附隨する温泉浴法の一斑を左に記述せん

温泉浴の最も能き時期は、四月より十月に亘り、而して寒胃を患へざる様注意すへし、又浴場に滞在して、浴する日時は、十五日を定期とし、然れども四週乃至六週に亘る可らず

入浴時間は、午前八時より午後一時を良とし、浴数は、壯年者は、一日二三回、老人は一日一回、且つ若し氣候寒冷にして、感胃を患へる如きあらば、夜間臨臥に先つて之を爲し、少なく食后一時間を経て入浴せしめ、入浴中は可成的淤泳するを可とす

一回の入浴時は、大抵十分時より漸次延長して、五六十分に至らしめ、然れども熱湯、冷浴に在ては、決して十分時を過く可らず

温泉の温度は、疾病の如何に由て、高度を用ゆる場合と雖も、華氏の九十八度乃至百度を適度とす、加之温泉浴數、内服量等は、老人、小兒、妊婦は、能く注意すべし

飲服量は、疾病體質と、泉の性質に従て、自ら差異あり、故に初めは少量にして一回六十瓦より始め、遂に其量を増加して一日四百瓦に至り、極めて大量なるも、一日千瓦を越ゆ可らず、飯用時刻は、朝夕二回、空腹時に際し、除々に服用すべし、服用後は、屋外散策を試むべし、浴場滞在中は、専ら攝生を厳守して、牛飲馬食且つ房事を節減すべし、其他最も疾病の種類に依り、適當の加療するは勿論なりとす

◎海水浴法

海水浴は、其効能亦た確實なる者にして、左に掲ぐる疾病は、冷水浴を行ふべし
 (1) 滋養不給に原因する諸病、即ち輕症の腺病、腺粘液漏、腺病性の子宮粘液漏、尙
 瘵病、腺病性貧血、腺病性萎黃病、
 神經衰弱に基因せる疾病、即ち腸胃の弛緩、全身、又は局部の筋衰弱、筋萎小の
 初期、筋麻痺の種類、神經系の感覺過敏、及びヒステリー
 (2) 皮膚他緩に原因する疾病は、痲瘋室斯、皮膚過敏、感冒の癖習、筋強直、粘膜

就中呼吸器の慢性加多流、扁桃腺の腫脹等にして、危篤に進みたる結核病、心臟病、又は極めて體質の脆弱なる人は、海水浴を行ふへからず、之れ害あるも利なければなり海水温法に適する疾病は、脆弱なる人、及び腺病質の小兒、虛弱なるヒステリー性の婦女短氣に苦しむ人（但し短氣者は温浴より始めて漸く冷浴に移るべきもの）

海水法を行ふに際し、注意すべき要項左の如し

- (1) 浴場の撰定 此れ浴場の位置は、肝要なる件にして、大洋中の孤島之に適す、何となれば氣候の整一なるを、晚風を生ずる憚なく、其他北風を防ぎ、東南の海濱に位せる處、及び南海の海濱に位せる處は、氣候の温度均一にして、其北方に近く、高山隆阜を以て、圍まれたる者殊に佳なりとす
- (2) 海水浴に適せる時期は、七月、八月、九月、及び十月初旬を善しとす
 浴を行ふ時間は、五分時にして、長きも十分時を越えへからず、而して一日一回

にして、日数は、概して二十五日乃至三十日を通常とす、尚ほ浴を行ふに適する時刻は、強康の人は、午前八時より、十時十一時までを最も良しとす、然し食後は直に浴すへからず、半時乃至一時を過ぐへし、神経性の人、虚衰の人又はヒステリー性の婦女は、午后四時より六時までを良しとす、強壯なる人に在ては、浴後更に常水の雨浴、若くは傾湯浴を行ふこと數秒時にして、後ち全身を摩擦し衣服を着すへし、然し虚弱者は、浴を出るの後には、鬆疎なる浴巾を以て軽く全身を摩擦するを可とす

(4) 海水浴を行ふ前には平素飲酒する者も、極少量に飲むか、又は全く斷つへし又朝は午前六時乃至七時には必ず起た、夜間は九時乃至十時には寢床すへし、尚ほ飲食物は、能く注意すへし、即ち朝食には、米飲、麵包、牛乳三勺乃至六勺、一二箇の半熟卵は、最も適當なるものとす、故に朝食には、決して煮熟せざる蔬菜、及び消化し難き副食を取る可らず、其他生蔬菜、豆類、脂肪多き豚肉、煮熟したる

卵、醃藏魚類等を食ふへからず、然し適度に食すへき者は、米飲、麵包、牛肉、兎肉、犢牛の肉、鯉鮒、新鮮の海魚、軟熟の果實、芋類、蔬菜の煮熟したる者等なりとす

日常家に在る時と、生活法を一轉して、舊癖を脱するは、生理的機能を旺盛せしめ佳良の健康を致す者にして、茶、煙草、燒酒、酒類等は、可成的戒むへきものとす

◎食物消化ノ時間一覽表

動物性食物の消化時間(但し健康者による)

食品	調理法	消化時間
全乳	煮	三時
牛乳	生	三時十五分
犢牛乳	燒	三時

○食物消化ノ時間一覽表

食 品	牡 ^が 比 ^ひ 鰓 ^ぎ 大 ^た 全 ^{ぜん} 鮭 ^さ 雞 ^き 牛 ^{ぎゅう} 全 ^{ぜん}
	乳 ^{にゅう}
	目 ^め 口 ^{くち}
	鱈 ^{たう} 魚 ^{ぎょ} 魚 ^{ぎょ} ブ ^ぶ 乳 ^{にゅう}
調 理 法	ス ^す 油 ^{あぶら} 煮 ^に 煮 ^に 鹽 ^{しほ} 煮 ^に 生 ^{なま} 硬 ^{かた}
	チ ^ち 或 ^や 或 ^や
	ユ ^ゆ 鹽 ^{しほ} は ^は
	ソ ^そ 揚 ^{あぶ} 漬 ^{つけ} 漬 ^{つけ} 煮 ^に 煮 ^に
消 化 時 間	三 ^{さん} 三 ^{さん} 一 ^{いち} 二 ^に 四 ^よ 一 ^{いち} 三 ^{さん} 二 ^に 三 ^{さん}
	時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ
	三 ^{さん} 三 ^{さん} 三 ^{さん} 時 ^じ 時 ^じ 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん}
	十 ^{じゅう} 十 ^{じゅう} 十 ^{じゅう} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん}

◎植物性食物ノ消化時間

全 ^{ぜん} 雞 ^き 雁 ^{げん} 家 ^か 全 ^{ぜん} 雞 ^き 兔 ^う 豚 ^{とん} 羊 ^{やう} 鹿 ^{ろく} 全 ^{ぜん} 全 ^{ぜん}
卵 ^{らん} 鴨 ^{あひ} 肉 ^{にく} 肉 ^{にく} 肉 ^{にく} 肉 ^{にく} 肉 ^{にく}
軟 ^{やわらか} 生 ^{なま} 全 ^{ぜん} 全 ^{ぜん} 燒 ^や 煮 ^に 燒 ^や 全 ^{ぜん} 全 ^{ぜん} 燒 ^や 煮 ^に 燒 ^や
に ^に
煮 ^に 沸 ^わ
三 ^{さん} 二 ^に 四 ^よ 四 ^よ 三 ^{さん} 二 ^に 三 ^{さん} 四 ^よ 三 ^{さん} 一 ^{いち} 三 ^{さん} 三 ^{さん}
時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ 時 ^じ
十 ^{じゅう} 十 ^{じゅう} 十 ^{じゅう} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん}
五 ^ご 五 ^ご 五 ^ご 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん} 分 ^{ぶん}

恭	蕪	小	人	玉	玉	全	馬	蠶	大	米
		麥		蜀	蜀					
		麵		黍	黍		鈴			
菜	菁	包	參	包	菓		薯	豆	麥	
全	煮	燒	煮	全	燒	煮	蒸	全	全	煮
							燒			
三	三	三	三	三	三	三	二	二	二	一
時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
四	三	三	十	十	時	三	三	時	時	時
十	十	十	五	五	分	十	十			
五	分	分	分	分	間	分	分	間	間	間

○ 飲食物

吾人は、生活力を保続せしむるには一定の飲食物を外界より攝取せざる可らず、之れ蒸氣機關に於ける、石炭と同一にして、若し此の供給なくんば、漸々衰亡するに至る

○ 食品分折表
 ◎ 動物性食品

同	同	歐	日	歐	産
		洲	本	洲	地
卵	卵	鶏	同	牛	種
黄	白	卵		乳	類
五二、〇	七八、〇	七四、〇	八六、九	八七、一	水
					蛋
一六、〇	二〇、四	一四、〇	七、八五	八、三	白
					脂
三〇、七		一〇、五〇	四、六四	三、九〇	肪
					鹽
一、三〇	一、六〇	一、五〇	〇、六	〇、六	類

○ 食品分折

○ 食用品分折表 動物性食品

同	日	歐	同	同	同	同	日	同	同	歐	
本	洲						本	洲		洲	
鳥	蒲	鰻	鱈	鮎	鯉	鯉	鱈	鮭	大	鰈	比
賊	鱈					節	魚		口		目
									魚		魚
二一、〇七八	七〇、三六一	六九、一七	七六、八二二	五九、五二二	一四、二六五	七二、七二八	六六、六七	七三、〇二	八二、七八	七四、三二	八二、八五
六九、五三二	二七、一二九	一三、八九	一八、五五四	一七、五七三	七五、六〇二	二五、〇五五	一八、一八	一六、八〇	二五、六七	一八、二〇	一五、二四
三三、二〇	〇、〇七五	一五、九二	二、七三二	一、六〇四	五、二二三	一、二二四	一三、六一	七、九四	〇、二四	六、二八	〇、六二
六、一七〇	二、四三〇	一、〇二	一、八九三	一、三〇一	五、〇二〇	一、〇〇三	〇、六六	〇、九九	一、二五	一、一二	一、九二

○ 食用品分折表

同	同	同	同	日	歐	日	歐	同	日	歐	日
								本	洲	本	洲
鯛	鰻	青	鯨	鰻	鴨	鶏	鹿	豚	羊	犢	牛
											牛
魚	魚	魚	魚	魚							牛
七七、八九八	七六、一六〇	七二、五〇三	七三、二三四	七〇、二五八	七〇、八二	七六、五六	七、三二七	五五、三〇	五七、三〇	六三、〇〇	六〇、八〇
一七、六四六	二一、四九七	二一、一〇一	二〇、六〇二	三一、三九八	二二、九五	二〇、九八	二〇、九一	一四、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇	一八、〇〇
三、〇七二	〇、七三一	四、八七九	四、八〇一	六、七二六	三、一一	三、七七	一二、一五	二八、一〇	二二、八〇	一五、八〇	一六、〇〇
一、三八一	一、六一二	一、五一七	一、四六七	一、六三七	一、〇九	二、四六	一、五四	二、六〇	四、四四	四、七〇	五、二〇

○穀類ノ分析

二百十

種類		水	蛋白質	脂肪	澱粉	糖及デキリン	纖維	灰
裸麥	一三、九五	一一、二〇	一、二三	七〇、一	一	一、五〇	二、〇一	
燕麥	一三、三〇	一一、〇〇	六、〇〇	五四、〇	〇	一〇、〇〇	三、〇〇	
蕎麥	一三、〇〇	一五、二〇	三、四〇	六三、六	〇	二、一〇	二、三〇	
粟	一三、三五	九、五五	三、五七	六五、七	七、五	四、五三	三、一二	
玉蜀黍	一四、五〇	九、〇〇	五、〇〇	六四、五	〇	五、〇〇	二、〇〇	
稗	一三、〇五	一三、〇四	三、〇三	五七、四	二	一〇、四一	三、〇五	
大豆	一一、七二	三六、五九	一七、七三	七二、八	〇	三、〇一	〇、八三	
小豆	一三、八七	一八、四一	〇、六一	五一、四	七	二、八一	二、八三	
豌豆	一四、三〇	二二、四〇	二、五〇	四九、一	〇	九、二〇	二、五〇	

穀類ノ分析

洲	日本	同
蝦	七九、六	八〇、三〇九
螺	七九、六	八〇、三〇九
魚	七六、六一八	一八、八三〇
魚	一九、一七〇	七三、一四〇
魚	一、一七〇	一、二八〇
魚	一、一七〇	一、五二〇
魚	一、一七〇	二、七〇
魚	一、一七〇	六、七五〇

○大豆製造食物ノ分析

大豆製造食物ノ分析

種	水	蛋白質	脂肪	澱粉	糖及デキリン	纖維	灰
裸麥	一一、二〇	一、二三	七〇、一	一	一、五〇	二、〇一	
燕麥	一一、〇〇	六、〇〇	五四、〇	〇	一〇、〇〇	三、〇〇	
蕎麥	一五、二〇	三、四〇	六三、六	〇	二、一〇	二、三〇	
粟	九、五五	三、五七	六五、七	七、五	四、五三	三、一二	
玉蜀黍	九、〇〇	五、〇〇	六四、五	〇	五、〇〇	二、〇〇	
稗	一三、〇四	三、〇三	五七、四	二	一〇、四一	三、〇五	
大豆	三六、五九	一七、七三	七二、八	〇	三、〇一	〇、八三	
小豆	一八、四一	〇、六一	五一、四	七	二、八一	二、八三	
豌豆	二二、四〇	二、五〇	四九、一	〇	九、二〇	二、五〇	

二百十一

○果實類分析表

種類	水	含窒物	脂	肪	無窒物	纖維	灰
豆類	八五、一五	八、九四	三、五四	一、七三	〇、六四		
赤味腐	五〇、四〇	一〇、〇〇	一八、九	〇	八、二	一二、五〇	
醬油	六四、〇二	四、一				一九、五一	
湯葉	二二、八五	五一、六〇	一五、六〇	六、六五	〇、四六	二、八二	
油揚	五七、四〇	二二、九六	一、八七二	〇、四九	〇、〇〇八	一、三五	
胡椒	二八、四七	五九、一八	三、一九	一、五四	二、二八	四、七四	
乾柿	一、五〇	〇、一二	六五、二二		一、六七	三一、四九	
柿	〇、五八	〇、〇二	一二、五六	二、七六	〇、四三	八三、六五	
同キザハシ	〇、六一	〇、〇二	一三、六二	三、二九	〇、四三	八二、〇三	
椎子	三、三七	〇、七三	六〇、五二	二、二八	一、一二	三一、九八	
甘扁桃	二七、〇二	五四、〇〇	六、〇〇	六、五六	二、九六	三、五〇	

○果實類分析表

種別	水	含窒物	遊離酸	糖分	其他窒素物	木材素	灰
林檎	八四、七九	〇、三六	〇、八二	七、二三	五、八一	一、五一	〇、四九
梨	八三、〇三	〇、三六	〇、二〇	八、二六	三、五四	四、三〇	〇、三一
杏	八一、二二	〇、四九	一、一六	四、六九	六、三五	五、二七	〇、八二
葡萄	七八、一七	〇、五九	〇、七九	二四、三六	一、九六	三、六〇	〇、五三
密柑	八九、〇一	〇、七三	二、四四	四、五九	〇、九五	一、七九	〇、四九
同キザハシ	〇、六一	〇、〇二	一三、六二	三、二九	〇、四三	八二、〇三	
椎子	三、三七	〇、七三	六〇、五二	二、二八	一、一二	三一、九八	
甘扁桃	二七、〇二	五四、〇〇	六、〇〇	六、五六	二、九六	三、五〇	

○根塊類分析表

○根塊類分析表

○根塊類ノ分析表

蘿蔔	慈姑	燕苔	土當歸	アメリカ芋	蓮根	佛手薯	薯蕷	九芋	青芋	甘藷
〇、七三	四、二七	一、六二	一、〇六	二、二一	一、七〇	二、八五	二、七五	二、七八	一、四〇	一、三五
〇、〇一	〇、二〇	〇、〇七	〇、一〇	〇、〇九	〇、〇八	〇、一一	〇、一二	〇、二九	〇、〇八	〇、一九
三、七〇	二四、三六	二、八二	二、四七	一七、八四	一〇、八六	一四、七一	一七、九七	二五、六九	一一、七〇	六、六三
〇、五一	〇、四五	〇、七一	七、〇〇	〇、八四	〇、七五	一、七九	一、一五	〇、三六	二、四八	二、四八
一、四九	〇、四四	〇、七八	〇、五七	〇、二五	一、二六	一、一七	一、二八	〇、九九	〇、九三	〇、九三
九四、五五	六九、二八	九四、〇〇	五九、一〇	七九、六一	八五、三九	八〇、三二	七六、二〇	八五、二〇	六六、二八	六六、二八

胡椒	羅	荷
一、二五	〇、三五	七、四一
一、一〇	〇、七七	八九、一二

●日本食献立表 (田原博士に依る)

●第一例

牛乳	味噌	野菜	牛肉
一	五	二	三
〇	〇	〇	一
〇、五	〇、五	〇、五	六
合	合	合	合

○日本食献立表

右合計栄養原質左の如し		蛋白質	九五、七瓦	脂肪	二八、〇瓦	含水炭素	四五四、三瓦	白米	四合
鶏卵	味噌	野菜	魚	第二例 (1) 菠薐草、芹、三ツ葉、鶯菜、小松葉の類 (2) 土當歸、胡蘿蔔、蕪菁、蓮根、苟の類 (3) 百合、慈姑、長芋の類 (1) 鯛、鱈、鰯、馬鮫魚の類				全白米	(2) 菱魚、鱸、ムツ、鯖、鮪、鱈の類
二箇	二〇	一〇	二〇	三〇	二〇	二〇	三〇	三五	四合

右合計栄養原質左の如し		蛋白質	一〇一、〇	脂肪	一九、二	含水炭素	四四六、六	全白米	三五
鶏肉、牛肉、猪肉の類	鶏肉、猪肉の類	豆腐皮、又燒獄	大豆	胡麻油	比目魚、鰻魚、鯉、アインメ、鰈、イサキ、鱒、鮒、鰻虎魚の類	豚脂、牛脂、牛酪、阿烈布油の類	莢菜豆、莢豌豆、鵲豆の類	豆腐	(2) 菱魚、鱸、ムツ、鯖、鮪、鱈の類
三〇	一〇	一〇	二五	二五	三五	一五	二五	四四六、六	四合

○分析的調査

味噌 (但嘗物)	一〇
白米	四
右合計榮養原質左の如し	四〇
蛋白質	一九、四
脂肪	四三、四、七
含水分炭素	四三、四、七

各食料養分	食保	高等師範學校	陸軍士官學校	攻玉社	二松學舎	吳服店	鍛冶橋監獄
蛋白質	九、〇〇	二四、八五	八、〇七	六、六六	六、九六	五、八〇	五、七二
脂肪	二〇、〇〇	三、四〇	三、三七	三、三六	一〇、〇三	五、九六	七、五九
含水分炭素	四五、〇〇	六四、九九	六、三四	四七、一〇	四九、六二	三九、四六	四四、五四
合計	五、六、〇〇	六、二、二四	七、九、一八	五、二、四二	五、八、八四	四、四、九四	五、〇、八五
養分比例	一、一五、〇	一、一六、〇	一、一七、八	一、一六、三	一、一六、三	一、一七、四	一、一八、一

爾他諸學校及び賄食館の分析的調査の成績左の如し

和氣氏試験	水	脂肪	灰燐酸類	消耗性窒素物	含水分炭素
アロイロナート	一〇、六三〇	〇、四一四	〇、二二二	七二、三三〇	六、九一二
一番粉	一四、六四二	一、三八〇	〇、〇五五	三三、四三〇	四三、七八六
生	六九、三二〇	〇、二二二	〇、〇二四	一〇、四二二	一六、一二三

和氣氏試験の質の

普通衛生療病新書 終

○和氣氏試験

明治三十四年三月廿日印刷
明治三十四年四月十日發行

正價金六拾錢

不許複製

著作者
發行者
印刷者
發行所

關 藤 治 郎
東京市神田區鍛冶町四番地
伊 藤 岩 治 郎
東京市京橋區入舟町五丁目一番地
江 川 繁 一
東京市神田區今川橋通北
誠 之 堂 書 店
(電話本局九四九)

ドクトル後藤新平序 檢疫事務官田中正鐸述 陸軍軍醫永井環筆記

赤痢即治療法 附赤痢豫防法策

關藤治郎 先生著 產婆看婦臨床看病法 附普通看病法

關藤治郎 先生著 產婆看護婦規則詳解 附試驗問題

廣瀬弘見 先生著 妊産婦の心得 一名安産育兒之法

郵正	郵正	郵正	郵正	郵正	郵正
稅價	稅價	稅價	稅價	稅價	稅價
金	金	金	金	金	金
四	三	四	六	四	三
拾	拾	拾	拾	拾	拾
錢	錢	錢	錢	錢	錢

濟生學會講師 丸茂文良校閱 吉岡荒太纂著

訂增 簡明生理學

改正補增第二版
菊判全二卷精圖挿入
紙數五百頁用紙舶來最上
正價 上卷金七十五錢 郵稅金八錢
下卷金六十五錢 郵稅金六錢

上卷目次 緒論 第一編 代謝機、血液及同循環、呼吸、分泌及排泄、消化、
吸收生理、人體之化學的成分
中樞、五臟器生理 第二編 動物溫、筋生理 第三編 末梢神經、神經

下卷目次 營養新陳代謝生理 第四編 生殖及發育生理、附錄 生理試驗問題
本書の體裁は方今獨逸國に行はるる、Compendium 體と Katchismus 體とを折衷し
たる著者が一種獨特之立案に據り主として最近之出版にかゝる「ハルマン」のラ
ア、及「スタイヤル」三氏之生理學を基礎とし傍ら從來之諸書を参照したるは勿論著
者が年來斯學之研究上親しく實驗修得したる材料とを以て纂著されたり故に日進之
や一度之を繙くときは疑義釋然又遺憾なかるべし殊に著者は血液并に神經生理に就
て最も緻密に論述したれば醫學學生は勿論醫師諸君に對し受驗用及病理學上之參考書
として最も適當なり
以是出版以來好評噴々初版缺本を告ぐるに數閱月今般一千八百九十三年の「ランド
ア」及「エヌストライヒ」氏の生理學を參考し且つ本年に至る試驗問題と補ひ斬新なる
挿圖數個を加へ猶卷末には新に人體化學的成分の一編を添附し再版を發行するに至
れり學者乞ふ坐右の好伴侶たらしめよ

將術開業 醫學士馬島珪之助纂譯
試驗委員

應用細菌學 附錄 虎列刺預防の注意
實扶 垓里亞血清療法 完
附 細菌學的破傷風

各冊細菌寫真圖譜入(小川一真寫)
各冊 正價 金四拾錢
郵稅 四錢

赤痢及麻刺里亞完

近世細菌學ノ開クルニ從ヒ傳染病ノ原因ヲ明シ、預防、消毒ノ法大ニ備レリ。加之「ハルマン」北里兩博士ノ血
清療法發見アリテヨリ以來之ヲ吾人人類ノ疾病ニ應用スルニ至レリ。願フニ外科醫學ノ内科ニ比シテ進歩ノ著
シキハ世人ノ均シク噴々タル所ニシテ、而シテ其源因ヲ求ムレバ「スタイヤル」氏ノ防痼法ヲ應用セシモノ實ニ主因ナリ。
防痼法ハ細菌學ニ胚胎ス。今ヤ細菌學ノ進歩ハ診斷ニ治療ニ豫防ニ内科學ノ裨益ヲ爲ス可キ點ニ在リ。材料ヲ盛
出セリ。若シ是等ノ材料ヲ巧ニ運用セバ診療ノ上ニ於キテ一新面目ヲ開クコト難シトセズ。宜ナリ、伯林大學ハ
「ハルマン」氏ニテ「コッホ」氏ノ研究所ニ迎ヘテ内科ノ教授ニ任セリ。彼ハ實ニ「ハルマン」氏ノ後ヲ襲ヘリ。然リ彼ハ「ハ
ルマン」氏ニ代リテ其講座ニ就ケリ。ト雖モ、ハルマン氏ノ舊式病理解學ニ代リテ「ハルマン」氏ノ新病理解學ヲ以テセリ。見ル可
シ、如何ニ歐洲ニ於ケル内科學ハ日テ進歩シテアルカチ、又知ル可シ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
新ノ機ニ在リ。今ヤ北里博士ノ門徒ニ在リテ細菌學ノ研究ニ切ナリ。此書ハ其概ヲ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
科、内科ニ對シテ「ハルマン」博士ノ著作ニ對シテ、欲シテ「ハルマン」博士ノ研究ニ切ナリ。此書ハ其概ヲ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
今細菌學ノ著者シカラスト欲シテ「ハルマン」博士ノ著作ニ對シテ、欲シテ「ハルマン」博士ノ研究ニ切ナリ。此書ハ其概ヲ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
本書ハ各病ノ如ク「コレラ」ノ病原菌ノ形、性、可キモノ、若クハ細菌學ノ成果ヲ内科ニ應用スルニ在リ。現
臨床上殊ニ必用ナル患者ノ排泄物若クハ分泌物ノ純淨培養上ノ關係、染色法ハ勿論、病源菌ト類似ノ細菌トノ鑑別ヲ詳
細ニ述ベ、血清療法ニ關シテハ「ハルマン」氏ノ原理解、使用ノ方ニ至ルマデ、之ヲ實際ニ施スニ當リテ注意ナキモノニモ「ハルマン」氏
ヲシメテ、別ニ「ハルマン」氏ノ著作ニ對シテ、欲シテ「ハルマン」博士ノ研究ニ切ナリ。此書ハ其概ヲ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
況ニシテ、別ニ「ハルマン」氏ノ著作ニ對シテ、欲シテ「ハルマン」博士ノ研究ニ切ナリ。此書ハ其概ヲ、歐洲ニ於ケル内科學ハ現ニ革
重ニ衛生ニ從事スル當事者ハ必ク之ヲ讀ムルニ當リ。大方ノ醫學士幸ニ愛讀スルニ當リ。

大家之一 全國各病院諸大家ノ寄贈ニ係ル最新治療書

改正 増補 日本大家處方新書 完 河野敏人 洋裝總クローズ包ポケット入 用紙舶來最上 紙數六百餘頁 定價金壹圓廿錢 郵税金六錢

本書ハ醫科大學ノ方符ヲ始トシ三府四十二縣一道廳ノ各病院長并ニ諸大家ノ寄贈ニ係ル治療法及其處方ト全國ノ醫會ヨリ發行セル雜誌中ノ治療録ヲ抜摘編纂シタル者ニ其結構ハ內科外科皮膚眼科産科及婦人科ノ各科ニ分類シ亦各系統ヲ逐テ之ヲ編列セリ且ツ其附録トシテ日本諸大家ノ手ニ成レル白血病ノ血液検査法、尿法、檢尿法、檢微法、種痘法及ヒ救急法ヲ以テシテ猶ホ又タ劇毒藥極量一覽表、急性中毒及解毒一覽、皮下注射用藥液表、人工浴用藥液表、灌腸用藥液表、醫科大學第一院ノ防痼法及坐藥製法等ヲ記載シテ以テ實地家ノ便利ヲ計レリ故ニ實地家及實地受驗生諸君ノ一大寶典タルハ勿論荷モ日本醫學ノ進歩ヲ知ラント欲スルモノハ實ニ一讀セザル可ラザルノ要書ナリ

陸軍軍醫 醫學士 中原貞衛補 故小池毅 鷓飼次郎共編

改正 増補 實用繙帶學 增訂三版 精圖七十餘 正價金五拾五錢 全一冊 郵稅四錢

初版は昔年ならずして業既に販了せるを以て、更に大に改竄補正して之を三版に附せり。前版に比すば挿圖増し紙數加はると多。其所説の明瞭なる、行文の辨潔なる、挿圖の精緻なる、印刷の明晰なる、加之估價の極めて廉なるは、世既に好評の噴噴たるものあり、何ぞ敢て又此に喋々するを要せむや。

濟生學舎長 長谷川泰先生 関井以序 河野敏人 用木正温兩氏纂著

簡明 內科學 完 洋裝總クローズ本綴美製 一頁十三行三十餘字 紙數六百五十頁 特別賣價金壹圓六十錢 郵稅十二錢

凡人に向て事物を教ゆるや學説の偏す可からず實地のみ倚すへからず二者相俟て始めて全きを得るもの也然るに從來の著書を見れば或は學理のみ精確に記述して實地に適せざるものあり或は實地にのみ拘泥して學理薄弱なる者あり著者此を憾として専ら公平無私の眼光を以て獨國最近出版の内科學の原本より最も論理の精確なる最も新法の法を摘譯し併て日本諸大家の實驗説を加へたる者にして全篇を義解原因 剖視 症候 經過 鑑識 豫后 治法等の數項に分ちて簡明に譯述し其類症鑑別及處方の如く最も綿密に記載したれば別に該書を購讀の必要なく實に至便の良書なり東京病院長 醫學士 日高 昂先生校閱 用木正温先生纂著

新 外科手術學 全壹冊大形 紙數二百餘頁 正價金七十五錢 精圖五十箇 郵稅六錢

本書ハ獨乙國近刊の外科書數種を涉獵し其所説の斬新精確にして最も實地上適切穩當なるもののみを採撰編纂せられ大手術は勿論總て外科手術に屬する者ハ網羅盡載せざるをなし而して各手術の沿革、適應症、術式、後治法、等繁を荷り粹を極めて明晰流暢に論述し加之精圖を以て其説明を補助せられたり故に一度之を讀くとさし習又ハ臨床の羅針盤と爲し玉はと裨益せらるゝ所決して鮮少ならざるべし

醫術受験者之寶典

醫術期業 試驗委員 醫學士 田代義徳先生
濟生學會講師 山田良叔先生 校閱 小池毅君 編纂

新纂 醫術期業 答案軌範

全 外科學篇。眼科學篇。紙數三百九十頁
冊二 內科學篇。藥學篇。紙數四百頁
正價六十五錢 郵稅六錢

此書は明治十七年より東京に於て施行せられたる醫術期業後期試験問題凡五百六十を網羅し毎問之に精密なる答案を歴載せるものなり世上この類の書實に尠少にあらず然れども受験者か採て以て應試準備の好伴となすに足るべき十分の價値あるものは未だ殆ど之をあらざるなり故に從來の受験者之を遺憾とするや久しかりきも此書の主眼たるや試験場裡に於て短時間内に可及的詳細周密なる答案を作らしむべき軌範を示したるものなり然して本書の特色として答案の毎節中皆其主要なる點を浩繁に示し簡約に叙述し更に細密なる註釋を付し所說斬新行文明晰而かも決してを得べく熟讀せば互細漏すなく知悉するを得へし加之一讀して直ちに要領を摘むる故郷に飾るの榮を得んとを掌を反へすか如けん請ふして此書を購て其言の虛ならざるを確り賜はんことを

醫學士 桑原丘爲先生纂著

新纂 藥物全書

大形 全書冊

紙數三百五十頁
正價 金壹圓
郵稅 八錢

抑も藥物學は醫學科中最も複雑浩繁なる學科にして假令一時之を諸記するも又忽にして之を遺忘するは醫家及醫學生諸君の常に浩歎せらるる所なり是れ藥物學科其物の性質なるか爲めなりと雖も多きは從來行はるる所の書籍或は卷帙浩濶にして記憶に便ならず或は意多しと雖も多きは從來行はるる所の書籍或は卷帙浩濶にして記憶に餘りに散漫にして實地家をして其依る所を選ふに由なからしむる等一も完全無缺の書を以て獨乙國最近刊行の藥物書より醫學生諸君の憾を慰せんか爲め深慮緻密なる考を以て獨乙國最近刊行の藥物書より醫學生諸君の憾を慰せんか爲め深慮緻密なる説を詳論細述し殊に生理醫治の兩効用は最も綿密丁寧に之を説明せられたり此書の紙數甚だ多からずと雖も多きは從來行はるる所の書籍或は卷帙浩濶にして記憶に失せず簡に流れずと雖も多きは從來行はるる所の書籍或は卷帙浩濶にして記憶に供し醫學は朝夕講習受験の資と爲す可し

警察醫長 醫學士 山根正次述 警視廳 醫務局 江原善植筆記

赤痢病豫防法

全壹冊

正價 金拾五錢
郵稅 金二錢

一名傳染病豫防法

醫師及法律家必讀す可き書

瑞西國大學教授ラッペンハイム原著 日本警察醫長 山根正次譯補

正價拾五錢 郵券代用一割増

本書の有名なる法學博士ラッペンハイム氏がパーセル大學に於て就職の際演説したる筆記を翻譯せるものにして主として醫師の人體を侵襲せる權理に就て立論し議論周匝痛快加るに譯文流暢平易近來の好著とす腕近人事の進歩も隨以醫務と法理の議論をなしたるは實に本著を以て破天荒とす醫師法學家は勿論關係あるものは一讀せざる可らざるの書なり初版發行忽ち賣盡し江瀾の需要に應ずる能はざりしか今再版に付し更に文章を訂正し体裁を整理し一層完壁の觀を呈せり江瀾諸君速に購讀を乞

醫學博士片山國嘉先生書翰 法醫學會吉山順吉編輯

改訂増補 第一版 下卷 紙數五百餘頁 賣價金八十錢

洋裝總くろす 郵稅各十錢

鑒定實例 第一版 紙數六百六十頁 賣價金八十錢 郵稅各十錢 鑒定實例 第一版 紙數六百六十頁 賣價金八十錢 郵稅各十錢

金成棗坪 先生著

袖學校醫通

全一冊

用紙船來 正價金卅五錢 郵稅金一一錢

本書は勉て我邦風俗習慣を考察し民度經濟を參酌し學理に鑑み實際に徴して編述せるものにして凡そ學校衛生に關する事項は細大漏さず博採遺す所なく加ふるに之に關聯する現行法律規則を稱註解釋する等優に獨自己の面目を有し其所載細微なるも繁雜ならず新なるも浮奇し失せず眞に空前の好書たり世の學校醫、師傳、父兄諸君斯書に依據して採擷去就する所あらば教育衛生の上に裨益するのみ蓋し鮮少なからざるものあらん

産科婦人楠田病院長 楠田謙藤先生著

第二版 不妊症論

上下二卷

正價金壹圓參拾錢 郵稅金十錢

緒論。第一編發芽不能に原因する不妊症。第二編完全なる精蟲と卵との交接障害に原因する不妊症。第三編卵の成熟化するに能はざるに原因する不妊症。第四編不妊症の原因に關する統計。第五編不妊症の療法。第六編歐洲にても我國にても凡婦人十人の中一人餘の不妊症者ある比例なる事は統計の示す所なり今假に我國婦女の数を二千人ありとすれば其中二百万人餘は兒を産むと能はざるものなり瀾瀾たるは人生の最も不幸なるものに對し凡ての幸福は殆んど滅却せらるるに非ざらんや此著は洵く泰西の諸記述を採りては未だ此最大不幸者を救ふ方法の研究を以てせしめたるものにして實に斯道の寶典あり誠きに第一第二版に倍し益愛讀あらんことを前版を發行せしより大に好評を博し既に賣盡して一本を刺さず今や第一第二版に倍し益愛讀あらんことを前

保人體筋肉一覽書

正價金廿五錢 郵稅二錢

木村順吉纂譯

長谷川衛生局長 廖亥
平井三等軍醫 編纂

實地檢疫指掌全

袖珍舶來紙 正價金參十錢
二百頁 郵稅二錢

第一編 檢疫醫學 第二編 檢疫事業
附錄 統計報告格式 預防消毒法
虎列拉病ノ市街ニ多キ赤痢ノ村落ニ基キ及腸病ノ夏秋ニ流行シテ腸管扶助新痘病ノ冬春ニ盛ナル等 傳染病預防
部共ニ四時之サ意ルベカラズ本書ハ各種傳染病ノ症候診斷法預防消毒法ハ勿論 衛生行政ニ關シテハ
染病院ノ設計等ヲ通ルニ記述シ附録トシテ報告統計簿式トシテ預防消毒ニ關スル諸法令ヲ網羅シ有クモ檢疫ニ
ハ新道ノ好尚該吏員ノ注目スベキ點トシテ記述セサルコトナシ故ニ假令急遽ニ要スル場合ト雖モ本書ヲ檢
諸君ハ勿論該吏員ノ所務警察市町村役場等ニハ必ス一本ヲ常備シテ有時常時ノ參照ニ資セサルベカラズ實
檢疫ニ關スルハ

士醫學教授醫學大科醫
關 校 生 先 長 田 弘
士學醫長所造製苗痘京東
文 序 生 先 助 之 珪 島 馬
文 序 并 閱 校 生 先 悅 恭 田 發
著 生 先 郎 七 田 木 久
照 對 洋 漢
覽 周 疹 痘

全一冊定價金三十五錢郵稅二錢

本書は痘疹、種痘、水痘、麻疹各症に技術を得られたる
著者の多年豊富の學識と實驗を以て東視西觀歐書
の粹を抜き斬新なる學說に悉く網羅し著者特有なる
眼力を用ひ和漢醫籍に興味ある症候治法を掲げ漢洋
を對照し殊に疾病の原因を詳にし加ふるに蔓延は之
を歴史に徴し且つ實地に適切に整理し曉せざるに務
めたり故に學生及び刀圭家諸君温古知新なる治病の
寶典に於て座右欠く可らざるの近世絶無の珍書なり

登坂休平編纂

國民實用衛生學

全一冊

紙收二百四十頁
正價四十四錢
郵稅四錢

本書は氣象、土地、水、家庭衣服、飲食及防疫論を最新の學識に基き一般人の容易に了解し得る程度に平易詳切
に專ら本邦の衣食住風俗習慣に論せしもの方れば何人も必要なるも亦一國の健康保障に欠く可らざる要書なり
衛生に關する者及官吏、學者、富家等凡て社會の上流に位する者自他の健康保障に欠く可らざる要書なり

醫家及學校用生理學解剖懸圖

帝國醫科大學畫士 近澤勝美君編畫

人身生理圖

石版着色精圖 正價四圓二拾錢
全二軸圖解一冊 小包重疊四百枚

學校用生理圖は世間甚だ其書に乏しく偶々一二世に行はるものあれども何れも假令の隙ならざるか若しくは
點を専門に流れて程度を失する等何れも學校用に適せざるは教育家の恒に遺憾とせらるることなるなり此圖は其欠
點を補はんがため發行せられたるものなり著者は久しく帝國醫科大學解剖室に於て抽圖を主とせし人にして大學
教授大家の教示と現令學校に於ける生理學の程度を參照して繪製したるものなれば解剖中を憶るのみならず第
二版を發行するの好況に向へり寫くは隨々御注文あらんことを

發行所

東京市神田區四福田町
電話本局千九百四十九番
大坂市南區心齋橋筋一丁目
電話八十四番

誠之堂 伊藤岩治郎 賣
文海堂 松村九兵衛 各地
書各全

産科婦人科楠田病院院長 楠田謙藏先生閱並序 同醫員渡邊光次先生著

第四版發賣

並道妊娠論

附小兒養育法

石版精圖四十個人。紙數二百五十頁。ほけつと入。正價金六十錢。郵税六錢。郵券代用一割増。密封小包送入錢百里外十六錢。

本書は久しく産科婦人科に従事して経験に富める専門醫渡邊先生の著にして生殖器の解剖、生理衛生を始めとし生殖に影響する全身の疾病婚姻並に結婚後の注意妊娠並に妊娠後の挿入し振假名を付せられたる十項を設け悉く網羅して平易簡明に説述し加之巧精なる石版圖畫數十葉を挿入し振假名を付せられたる注意し系統を審殖し強健の子孫を得んと欲する諸君は男女を問はず必ず一讀せざるべからざる也夫人は壯健となり不和ありし門は圓熟し不妊ありし婦人は可憐の小兒を擧ぐるとを得ん大方の諸君を世に有ふれたる此種の著述と同一視することなく一讀其不幸を癒せらる可し

男女必讀自衛

○第一節 總論 ○第二節 男子生殖器の解剖 ○第三節 男子生殖器の生理 ○第四節 男子生殖器の疾病 ○第五節 女子生殖器の解剖 ○第六節 女子生殖器の生理 ○第七節 女子生殖器の疾病 ○第八節 接生 ○第九節 胎前 ○第十節 分娩 ○第十一節 產後 ○第十二節 小兒養育 ○第十三節 小兒疾病 ○第十四節 小兒衛生 ○第十五節 小兒教育 ○第十六節 小兒心理 ○第十七節 小兒社會 ○第十八節 小兒文學 ○第十九節 小兒藝術 ○第二十節 小兒科學 ○第二十一節 小兒哲學 ○第二十二節 小兒宗教 ○第二十三節 小兒政治 ○第二十四節 小兒經濟 ○第二十五節 小兒法律 ○第二十六節 小兒倫理 ○第二十七節 小兒道德 ○第二十八節 小兒風俗 ○第二十九節 小兒習慣 ○第三十節 小兒職業 ○第三十一節 小兒娛樂 ○第三十二節 小兒體育 ○第三十三節 小兒音樂 ○第三十四節 小兒美術 ○第三十五節 小兒手工 ○第三十六節 小兒機械 ○第三十七節 小兒農藝 ○第三十八節 小兒工業 ○第三十九節 小兒商業 ○第四十節 小兒交通 ○第四十一節 小兒通信 ○第四十二節 小兒交通 ○第四十三節 小兒交通 ○第四十四節 小兒交通 ○第四十五節 小兒交通 ○第四十六節 小兒交通 ○第四十七節 小兒交通 ○第四十八節 小兒交通 ○第四十九節 小兒交通 ○第五十節 小兒交通

攝生新書

○第一章 攝生 ○第二章 衛生 ○第三章 養育 ○第四章 疾病 ○第五章 衛生 ○第六章 衛生 ○第七章 衛生 ○第八章 衛生 ○第九章 衛生 ○第十章 衛生 ○第十一章 衛生 ○第十二章 衛生 ○第十三章 衛生 ○第十四章 衛生 ○第十五章 衛生 ○第十六章 衛生 ○第十七章 衛生 ○第十八章 衛生 ○第十九章 衛生 ○第二十章 衛生 ○第二十一章 衛生 ○第二十二章 衛生 ○第二十三章 衛生 ○第二十四章 衛生 ○第二十五章 衛生 ○第二十六章 衛生 ○第二十七章 衛生 ○第二十八章 衛生 ○第二十九章 衛生 ○第三十章 衛生 ○第三十一章 衛生 ○第三十二章 衛生 ○第三十三章 衛生 ○第三十四章 衛生 ○第三十五章 衛生 ○第三十六章 衛生 ○第三十七章 衛生 ○第三十八章 衛生 ○第三十九章 衛生 ○第四十章 衛生 ○第四十一章 衛生 ○第四十二章 衛生 ○第四十三章 衛生 ○第四十四章 衛生 ○第四十五章 衛生 ○第四十六章 衛生 ○第四十七章 衛生 ○第四十八章 衛生 ○第四十九章 衛生 ○第五十章 衛生 ○第五十一章 衛生 ○第五十二章 衛生 ○第五十三章 衛生 ○第五十四章 衛生 ○第五十五章 衛生 ○第五十六章 衛生 ○第五十七章 衛生 ○第五十八章 衛生 ○第五十九章 衛生 ○第六十章 衛生 ○第六十一章 衛生 ○第六十二章 衛生 ○第六十三章 衛生 ○第六十四章 衛生 ○第六十五章 衛生 ○第六十六章 衛生 ○第六十七章 衛生 ○第六十八章 衛生 ○第六十九章 衛生 ○第七十章 衛生 ○第七十一章 衛生 ○第七十二章 衛生 ○第七十三章 衛生 ○第七十四章 衛生 ○第七十五章 衛生 ○第七十六章 衛生 ○第七十七章 衛生 ○第七十八章 衛生 ○第七十九章 衛生 ○第八十章 衛生 ○第八十一章 衛生 ○第八十二章 衛生 ○第八十三章 衛生 ○第八十四章 衛生 ○第八十五章 衛生 ○第八十六章 衛生 ○第八十七章 衛生 ○第八十八章 衛生 ○第八十九章 衛生 ○第九十章 衛生 ○第九十一章 衛生 ○第九十二章 衛生 ○第九十三章 衛生 ○第九十四章 衛生 ○第九十五章 衛生 ○第九十六章 衛生 ○第九十七章 衛生 ○第九十八章 衛生 ○第九十九章 衛生 ○第一百章 衛生

附小兒養育法目錄

○第一章 小兒養育 ○第二章 小兒疾病 ○第三章 小兒衛生 ○第四章 小兒教育 ○第五章 小兒心理 ○第六章 小兒社會 ○第七章 小兒文學 ○第八章 小兒藝術 ○第九章 小兒科學 ○第十章 小兒哲學 ○第十一章 小兒宗教 ○第十二章 小兒政治 ○第十三章 小兒經濟 ○第十四章 小兒法律 ○第十五章 小兒倫理 ○第十六章 小兒道德 ○第十七章 小兒風俗 ○第十八章 小兒習慣 ○第十九章 小兒職業 ○第二十章 小兒娛樂 ○第二十一章 小兒體育 ○第二十二章 小兒音樂 ○第二十三章 小兒美術 ○第二十四章 小兒手工 ○第二十五章 小兒機械 ○第二十六章 小兒農藝 ○第二十七章 小兒工業 ○第二十八章 小兒商業 ○第二十九章 小兒交通 ○第三十章 小兒通信 ○第三十一章 小兒交通 ○第三十二章 小兒交通 ○第三十三章 小兒交通 ○第三十四章 小兒交通 ○第三十五章 小兒交通 ○第三十六章 小兒交通 ○第三十七章 小兒交通 ○第三十八章 小兒交通 ○第三十九章 小兒交通 ○第四十章 小兒交通 ○第四十一章 小兒交通 ○第四十二章 小兒交通 ○第四十三章 小兒交通 ○第四十四章 小兒交通 ○第四十五章 小兒交通 ○第四十六章 小兒交通 ○第四十七章 小兒交通 ○第四十八章 小兒交通 ○第四十九章 小兒交通 ○第五十章 小兒交通 ○第五十一章 小兒交通 ○第五十二章 小兒交通 ○第五十三章 小兒交通 ○第五十四章 小兒交通 ○第五十五章 小兒交通 ○第五十六章 小兒交通 ○第五十七章 小兒交通 ○第五十八章 小兒交通 ○第五十九章 小兒交通 ○第六十章 小兒交通 ○第六十一章 小兒交通 ○第六十二章 小兒交通 ○第六十三章 小兒交通 ○第六十四章 小兒交通 ○第六十五章 小兒交通 ○第六十六章 小兒交通 ○第六十七章 小兒交通 ○第六十八章 小兒交通 ○第六十九章 小兒交通 ○第七十章 小兒交通 ○第七十一章 小兒交通 ○第七十二章 小兒交通 ○第七十三章 小兒交通 ○第七十四章 小兒交通 ○第七十五章 小兒交通 ○第七十六章 小兒交通 ○第七十七章 小兒交通 ○第七十八章 小兒交通 ○第七十九章 小兒交通 ○第八十章 小兒交通 ○第八十一章 小兒交通 ○第八十二章 小兒交通 ○第八十三章 小兒交通 ○第八十四章 小兒交通 ○第八十五章 小兒交通 ○第八十六章 小兒交通 ○第八十七章 小兒交通 ○第八十八章 小兒交通 ○第八十九章 小兒交通 ○第九十章 小兒交通 ○第九十一章 小兒交通 ○第九十二章 小兒交通 ○第九十三章 小兒交通 ○第九十四章 小兒交通 ○第九十五章 小兒交通 ○第九十六章 小兒交通 ○第九十七章 小兒交通 ○第九十八章 小兒交通 ○第九十九章 小兒交通 ○第一百章 小兒交通

維納大學教授

シヤウタア著述

楠田謙藏譯補

産科手術學

時と場所とを撰ばず、尤も慎密なる注意と尤も敏捷なる機智とを以て成効を一舉に期するを要するも産科手術の如きは、他科に於ては決して見るを得ざる所にして、學者の慘憺たる苦心を以てするも猶達し難しと云ふは尙に故無きに非ざるあり、キインノシヤウタアは才識學殖優に一世の翹望する所とあるに足り、實に現今斯學界の明星にして、其著産科手術學は説く所寄嶽嶽新他の此種の著述をしと全く顔色なからしめたり。今楠田氏之を國語に移すに當り、其抱持せる幾多の經驗を將て之に附加し讀者をして毫も遺憾をからしめんとせり。以て茲に謹告して江湖の高願を待つこと然り

1/10/36

醫學士
長谷川順治 藤新藏
後藤新藏 編纂

醫學開業受驗叢書

- | | | | | | |
|---------------------------------|-------|-------|-------|-------|------|
| 各科速成 | 生理學 全 | 解剖學 全 | 化學 全 | 物理學 全 | 各科速成 |
| | 內科學 全 | 外科學 全 | 眼科學 全 | 藥物學 全 | |
| <p>衛生局長 局師 長岡 長谷川 泰助 先生題辭 編</p> | | | | | |

家庭衛生新書

全一冊判
郵稅四錢

目錄の必要の大要
 ① 衣服の洗濯
 ② 食料の調理
 ③ 居室の掃除
 ④ 運動の注意
 ⑤ 睡眠の衛生
 ⑥ 飲食の節制
 ⑦ 胎前産後の注意
 ⑧ 病室の掃除
 ⑨ 傳染病の予防
 ⑩ 毒物の取扱
 ⑪ 毒物の検査
 ⑫ 毒物の治療
 ⑬ 毒物の解毒
 ⑭ 毒物の排泄
 ⑮ 毒物の吸収
 ⑯ 毒物の分布
 ⑰ 毒物の作用
 ⑱ 毒物の毒性
 ⑲ 毒物の種類
 ⑳ 毒物の発生
 ㉑ 毒物の伝播
 ㉒ 毒物の潜伏
 ㉓ 毒物の発症
 ㉔ 毒物の診断
 ㉕ 毒物の治療
 ㉖ 毒物の予防
 ㉗ 毒物の検査
 ㉘ 毒物の治療
 ㉙ 毒物の解毒
 ㉚ 毒物の排泄
 ㉛ 毒物の吸収
 ㉜ 毒物の分布
 ㉝ 毒物の作用
 ㉞ 毒物の毒性
 ㉟ 毒物の種類
 ㊱ 毒物の発生
 ㊲ 毒物の伝播
 ㊳ 毒物の潜伏
 ㊴ 毒物の発症
 ㊵ 毒物の診断
 ㊶ 毒物の治療
 ㊷ 毒物の予防
 ㊸ 毒物の検査
 ㊹ 毒物の治療
 ㊺ 毒物の解毒
 ㊻ 毒物の排泄
 ㊼ 毒物の吸収
 ㊽ 毒物の分布
 ㊾ 毒物の作用
 ㊿ 毒物の毒性

警察局長 山根正次 検閲
 現行衛生法規全書
 東京地方裁判所警務嘱託 醫學士 山根正次 纂輯
 警視廳第三部長警察醫長

東京府衛生課長 高根 達 編
 全 紙數六百六十一頁
 卅一年十月改正 正價金八十錢
 郵稅金八錢
 實用檢毒學
 全壹冊 精圖入
 正價金六十錢 郵稅金四錢

毒物検査は裁判醫學中最も重要にして且つ最も困難なるものあり輒近社會の一大問題たる某毒殺嫌疑事件が如何に醫學社界に恐慌を與しかに見て之を知るを得べし此書は裁判醫學に有名なる山根醫學士の近業に成りドクトル、クシイ、ン氏のエレメンテナル、フワイレンツシエ、ヘミツシエン、アナリゼ、を基本とし、旁ら他の成書に參し加るに自家の實驗を以てせられたるものにして尋常譯書と同日にして語るべきにあらす從來裁判醫學に關する成書の世に於ては此の如きもの未だ之れを大抵此の學の普及に沙るものにして檢毒學に於ては此の如きもの家の需求緊要の事項を以て編纂するのみならず一般醫士たるもの平素に於て坐右を離すべからざる貴書なり

Deutsch und Japanisches Wörterbuch.

文學博士 中村正直先生序 福地源一郎先生跋
 文科大學教師 獨國 卷くとする ぐろうと先生序
 金子直行先生 纂譯 專門學科諸先生校訂

訂譯 補 獨 和 辭 書

第五版

特別減價 金貳圓

(全國通運便貨貳拾錢) 小包郵便量目四百目

洋裝堅固上等美製本

縱七寸五分 橫五寸三分 壹頁二列
 七十四段詰 紙數七百餘頁

獨和辭書跋

東京之地。百貨所鐘。萬國所歸往。大道坦坦四通八達。殷富隆昌。冠於天下。而孰知其當初披榛莽決沮洳之勞且難乎。蓋世享其利而不知其所源者多矣。儒學之東漸。為日尚淺。新進之徒。不免茫洋迷津。頃金子直行君獨和辭書成。受而閱之。體例得宜。照譯精粹。奇辭與旨。莫不通暢。其惠學者。非淺少也。蓋晚入之學。難疑紛出。剔目錄心。其為蕪穢亦大矣。而君能獨力當之。刈夷疏通。豁然開平曠之途。其拮据經營之勞何如哉。初學之士。自今而後。得避難就易。輕車熟路。逍遙乎文學之林。遊息乎藝術之圃焉者。其安可不知其所自哉。

櫻痴居士 福地源一郎識

本書は出版以來版を重ねること數回其價值に於ては世の既に公評あり今茲に贊するを欲せず獨逸文學に螢雪の苦を積まんとする者須らく一典を購ふて坐右の良師友となせ!!

獨逸學獨脩書

獨和輕便會話

ハツト入 兼明著

郵正 稅價 金 二 十五 錢

獨逸作文獨脩

金子直行纂譯 專門學科諸先生校訂

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨和書簡文例

獨和協會學校編 平塚定三郎校閱 石川源一 郎譯解

郵正 稅價 金 四 十 錢

平塚氏獨逸文法解

醫學士 馬島碓之助

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨和修正獨

獨和協會學校編

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸作文獨案內

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本獨案內

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本獨案內

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本獨案內

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

獨逸讀本直譯

馬島碓之助譯

郵正 稅價 金 四 十 錢

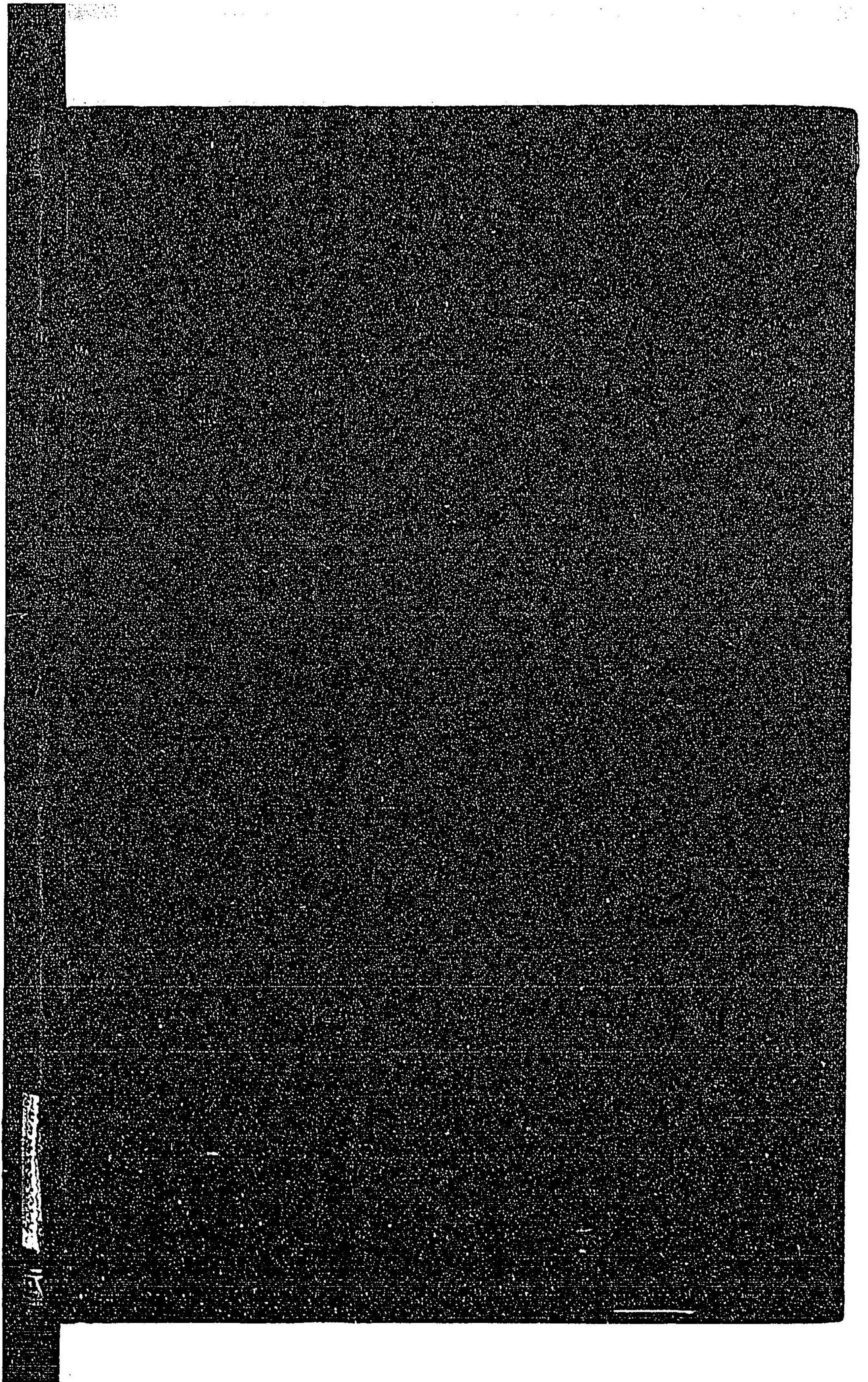
注意

各講義は、著者自ら講義したるものなり。其の誤謬あるを、讀者の注意を要す。...

中等和漢文講義書類 既

- 第一編 堀捨次郎 名取弘三兩氏講義
第二編 伊藤平章講義
第三編 深井鑑一郎講義
第四編 今泉定介講義
第五編 花輪時之輔講義
第六編 今泉定介講義
第七編 深井鑑一郎講義
第八編 島山健講義
第九編 服部誠一講義
第十編 河村定解講義
第十一編 今泉定介講義
第十二編 深井鑑一郎講義
第十三編 今泉定介講義
第十四編 深井鑑一郎講義
第十五編 今泉定介講義
第十六編 三木五百技講義
第十七編 今泉定介講義
第十八編 増田子信 生田目經徳 先生講義
第十九編 柳田幾作講義
第二十編 松平 靜庵講義
第二十一編 羽山尚徳講義
第二十二編 今泉定介講義
第二十三編 本居豊頼校閱 増田子信稿
第二十四編 正和裝金三四 洋紙摺巻八拾錢
第二十五編 三木五百技講義
第二十六編 大塚彦太郎講義
第二十七編 正和裝金三四 洋紙摺巻八拾錢
第二十八編 三木五百技講義
第二十九編 正和裝金三四 洋紙摺巻八拾錢
第三十編 三木五百技講義

67
10



61
10

058783-000-1

61-10

普通衛生療病新書

関 藤治郎 / 編

M34

CBC-0341

